114
A 424

約

明治廿一年十月八日

長壽市櫻町
十八番地ニテ
田内真盛

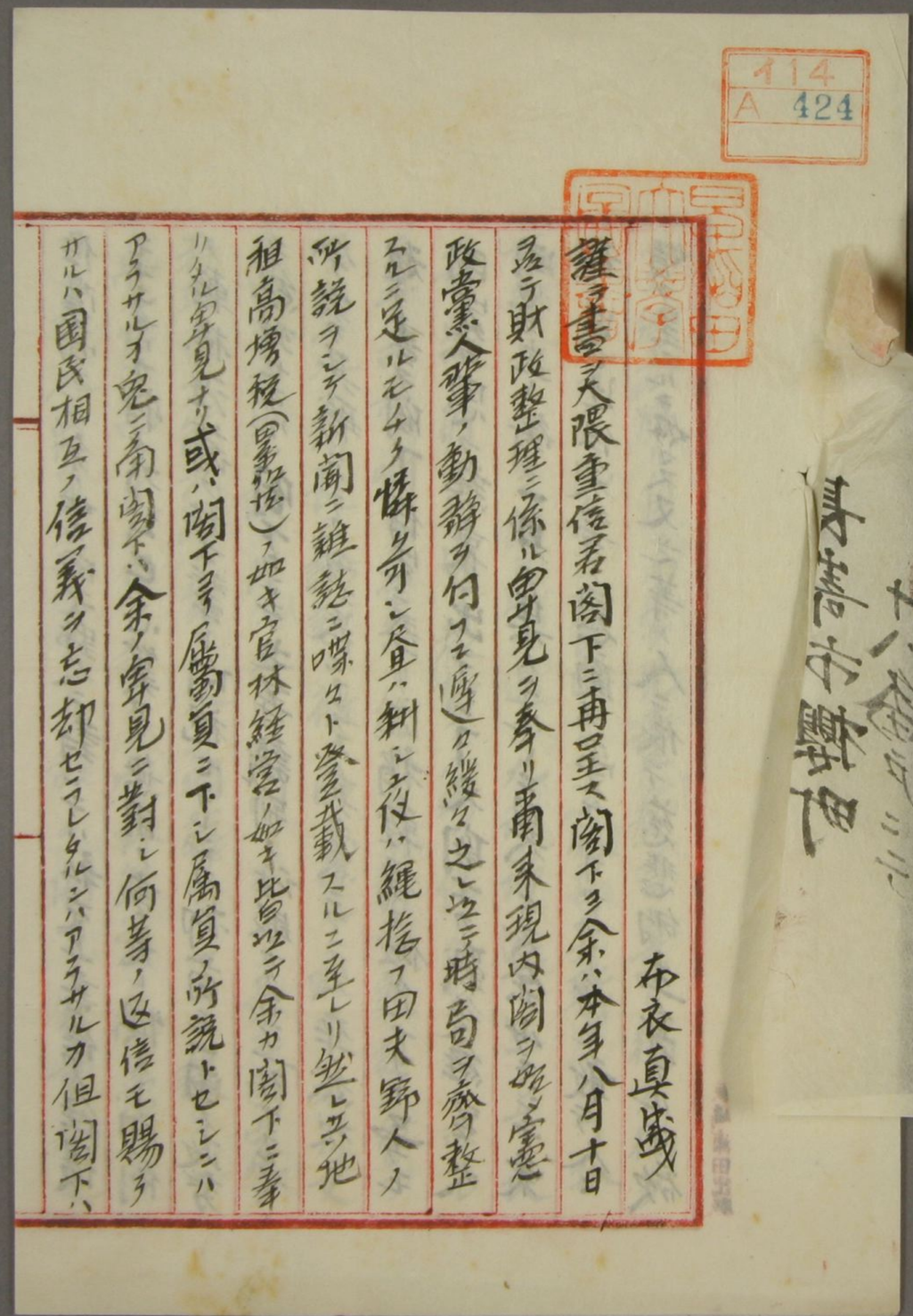
東京総理大臣官邸
大隈重信殿閣下
親展

謹啓

憲法ノ整ヒ人ノ
施行ニ臨ミ
ニハ
物ヲ

サルハ国民相互ノ信義ヲ忘却セラレタルニハアラサルカ但閣下ハ

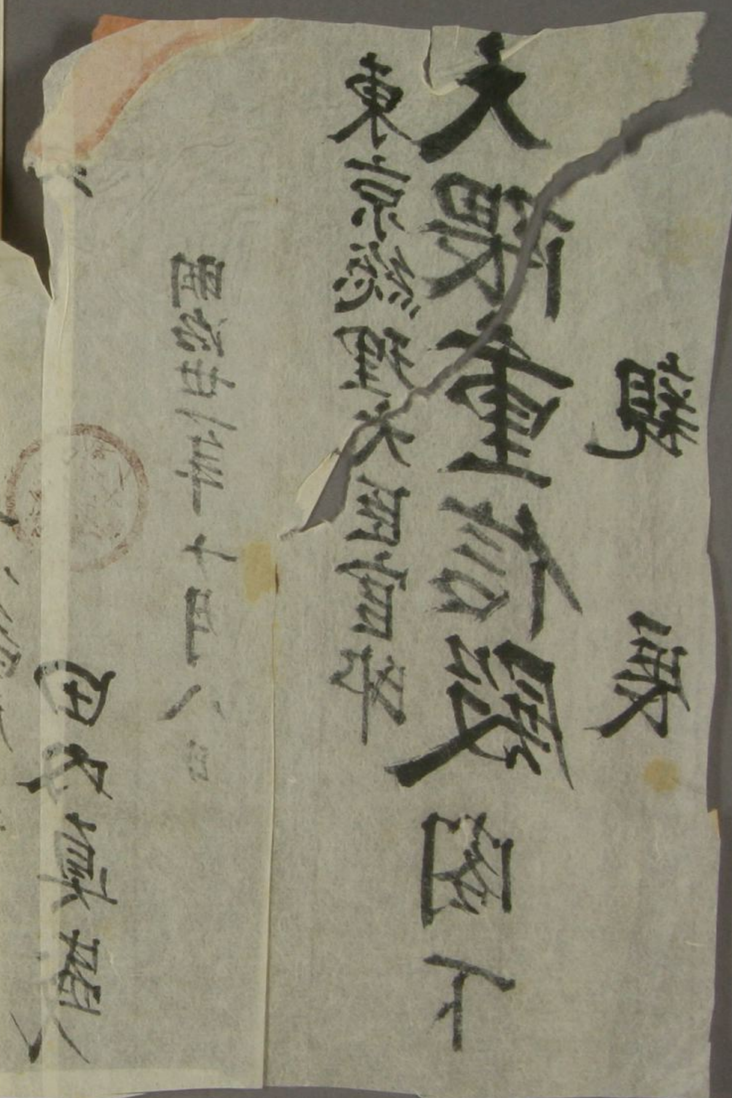
114
A 424



謹啓 大隈重信君閣下ニ再呈ス閣下ニ余ハ本年八月十日
ヨリ財政整理ニ係ル意見ヲ奉リ爾来現内閣ヲ始メ憲
政黨人輩ノ動靜ヲ伺フニ唯遅々之レ立ツ時局ヲ齊整
スルニ足ルモノナク憐ムヘキ貧ハ剩レ夜ハ縄捲ノ田夫野人ノ
所説ヲシテ新聞ニ雜誌ニ喋々ト登載スルニ至レリ然レトモ他
租高增稅(畧)ノ如キ官林經營ノ如キ皆立テ余カ閣下ニ奉
リタル意見ナリ或ハ閣下ニ屬員ニ下レ屬員ノ所説トセレンハ
アラサルオ鬼ニ角閣下ハ余ノ意見ニ對シ何等ノ返信モ賜ラ
サルハ國民相互ノ信義ヲ忘却セラレタルニハアラサルカ但閣下ハ

雜子書ニ大隈重信君閣下

布衣真蔵



謹
大隈重信殿
東京市麻布区宮村町
東京市牛込区
十八番地ニテ
田口藏太郎

位階高ケレ共余ノ如キ田夫野人ニ對シテハ私交上書信ノ往復
モナラサルカ將タ乃公已ニ心笑アリ無用ノ言夫レ慎メト即例
ノ軽操浮薄ノ壯士輩ト同視セラレシカ抑苟モ一國ノ政務
ヲ総理セラル、閣下ニシテ之等識別ノ法眼ナクシテ可ナランヤ
今余カ其職ニアラス其器ニアラス其黨ニアラス卒然次ヲ
越テ書ヲ閣下ノ侍史ニ奉リシハ稍軽操ニ似タルアリト雖モ
国家ヲ思フ熱衷ニ出テシ丁又閣下カ戰後経営ノ大
困地ニ立ツ衡ヲ一身ニ集メラル、ニ異ナラス余山ニシテ東
都ニ遊ヒ辻佐朱等ノ慰顧ヲ受ケシ丁アリト雖モ敢テ人ニ
媚ヲ呈スルヲ好マス又之等ノ人ニ依テ慈悲的主身スルヲ欲

セス郷土ニ帰リ自ラ小学児童ノ教育ニ當リ獨主獨歩
常ニ家カアル児童ヲ養成セントヲ努メ其職ニアル丁於
有ニ年故アリ自ラ請テ職ヲ退キ九州漫遊ノ途ニ上リ長
崎ノ留ル弱四日遂ニ旅費ニ窮シ僅ニ食ヲ妻ニ求ムル
ニ至リ市童ノ嘲笑ヲ受ケツ、終日友ヲ新聞雑誌ニ當シ
坐テ国家ノ消長ヲ論議シ微カ已ヲ省ルノ暇ナシ不肖文
ハ退之三百坪ヲ譲リ學ハ朱氏陽明ニ及ハスト雖モ国家ヲ
料理スル才能決斷ニ於テハ杏翁藤公ニ一歩ヲ譲ラカル
ヲ覺悟アリ而テ先ニ自ラ許シテ官林経営ノ衝ニ當ラン
丁ヲ希ヒ人爵ノ未タ備ラサルアルノ故ニ閣下ノ寄量尚之

ヲ入ル、能ハス止ナク今回ハ節ヲ折リ情ヲ述テ再書ヲ
奉ルナリ閣下若シ人オヲ擧ケ現内閣ヲ持續シ以テ天恩
ニ答ヘ奉ラント欲セハ先余ヲ用ヒヨ余ハ敢テ閣下ノ馬下
ニ鞭捧ヲ勤ムルモ之レ厭フニアラス唯余ノ意見ヲ閣
下ニ傳フルニ足レリ閣下幸ニ余ノ宿志ヲ入レ余ヲ
シテ徐ニ黄泉ノ土産ヲ作ラシメヨ嗚呼不敬恐惶
々々再拜

明治廿年十月八日　於長崎市櫻町旅宿

愛媛縣人　田内真蔵

大隈重信殿閣下

緊急事件ニ對スル意見

一ヒリツピン群島ノ處分

ヒリツピン群島ノ動靜タル日和帝國ニ於テハ萬國ノ
利害ニ関係スルモノ多シ殊ニ我日本ハ接近地ナルヲ以テ
自ラ提議者トナリ全島ノ處分ハ東洋ノ平和ヲ計
ル(キ)權利義務ヲ自ラ負フ而テ其處分法ハ即全島
ヲシテ日英米西佛獨清佛等諸ニ利害關係
アル諸強國ノ保護國トシ東洋平和ノ基礎トスル
ヿ之レナリ若シ一ニ強勢ノ占有スル處トナル日本ノ不
利此ノ上モナカルヘシ當局者タル夫レ英新アルヤ

二 萬事和愛議ニ賛加セズンハ世評ニ委スベシ一家経ノ
政策ニ関シ真相ヲ隠メ侮ニ出ズセザル事ヲ要ス

三 徴兵非役税法ヲ設クル事

徴兵戦隊ニ者ニ対シ其職業ニ三ヶ年ノ監視
ヲナシ其牧畜ヲ一ヶ年十二円ヲ下ラザル非役税ヲ
納メシメ以テ其生活ヲ防キ其労力ヲ休ムセル生産
ヲ国庫ヲ助クルナレハ一挙ニシテ両得ノ策ト
ス以上二議案ニ附セラレンヲ望ム

明治三十年十月八日　長崎県士族　田内良哉